

2025年度（第2次） 神戸市外国語大学大学院入学試験
英語学専攻 通訳翻訳領域
解答例・出題意図

問 I

【出題意図】 Translation Studies における「文化的転回」(cultural turn) を論ずるためには、翻訳理論の学説史全体を理解する必要がある。ここでの「文化的転回」は、1980年代から1990年代にかけての翻訳研究において生じた理論的な潮流を指し、言語学的なテキスト分析から文化・社会的アプローチへと分析の視点を転換させ、翻訳行為を文化的・社会的・歴史的・政治的な実践として捉える重要な理論的転換点となった。その影響は現在も強く残り、広義の「翻訳」を対象とした研究が展開されている。以上の点を踏まえた論述ができるかを問う意図で出題した。

問 II

【出題意図】 翻訳理論における「機能主義」や「スコpos」を理解したうえで、適切な学術用語を用いて日本語へと訳出しているかを問う意図で出題した。

【解答例】 (入試問題であることを前提とした訳出)

機能主義は、現代の翻訳学において影響力をもつ動向である。機能主義者によって提唱された翻訳の目的への新たな着目は、1980年代にドイツで「スコpos理論」という一般的な呼称のもとに登場し、特にハンス・フェルメール（例えば1978年、1989年；ライスとフェルメール 1984年）との結びつきが深い。

スコpos（ギリシャ語で「目的」「目標」）は、翻訳プロセスにおける相互作用のダイナミクスや語用論的目的といった側面に焦点を当てる理論にとって適切な名称である。この理論は、最終的に目標テキストがどのような形を取るかは、目標言語のコンテキストにおいて意図された「機能」、つまり「スコpos」に大きく左右されると主張する。そのような方略は、従来の等価性に基づく手法と相反する可能性があり、実際にそうなることもよくある。というのも、スコposのもとでは、目的が本質的に手段を正当化するからである。

スコposという考えは、例えば意図や行為などという語用論における主要な概念に依拠している。以下の二つの基本前提がある。

スコpos規則 1：相互作用はその目的によって決定される。

スコpos規則 2：目的はテキストの受け手によって変化する。

翻訳者の意思決定のためのそのような枠組みは、テキストとコンテキスト両方の複数の要因によって規定される。その一つが「オーディエンス・デザイン」で、これは目標テキストがどのように受容されようと意図されているかの主要因である。これにより、どの翻訳方略が最適であるかが大きく左右される。異なる目的には異なる翻訳方略が適用されることがある。つまり、いわゆる「翻訳」、言い換え（薄い注釈）、あるいは再編集（厚い注釈）な

2025年度（第2次） 神戸市外国語大学大学院入学試験
英語学専攻 通訳翻訳領域
解答例・出題意図

どが、それぞれ異なるコミュニケーションの必要性に応じて用いられるかもしれない。

では、誰が特定の翻訳のスコープを実際に決定するのか。この問いに対する率直な答えは「顧客」であり、翻訳の依頼があるとそのプロセスを開始して、翻訳の指示や「指示書（ブリーフ）」を提供する。しかし、「翻訳指示書」は常に十分に詳細とは限らず、用いるべき方略や適切な翻訳のタイプなどが指示されていない場合がある。こうした問題に対処するため、スコープ理論では、特定の翻訳作業を遂行するための「標準的な」方法（職業翻訳者たちのコミュニティによって承認されたもの）が一般的に存在すると普通は仮定する。これはまた、明確な「顧客」がない場合や、何ら目的が特定されていない場合にも同様である。

そのため、近年の翻訳研究（例えば、ノード 1991 年、2005 年）における「目的」に関する議論は、翻訳の職務によって規定される翻訳の目的という概念に集中する傾向がある。しかし、ライスがかつて予見したように、この種のスコープは、翻訳または通訳のプロセスにおいて関与する目的の構成要素の一つに過ぎない。目的の範囲を同定するには、修辭的、機能的、翻訳的な基準を行使し、これら（およびそこから生まれる目的の範囲）を「状況のコンテキスト」「文化のコンテキスト」「修辭的目的」などのカテゴリーと関連付ける必要がある。これにより、ライスがもともと実務翻訳者向けの指針として提唱した「テキスト類型」の概念が生まれた。詳細は後述するが、三つの基本的なテキストのタイプが提唱され、「意図」つまり修辭的目的、および「機能」つまりテキストの用途などの諸要因によって区別される。

- ・「情報型」テキスト：情報を伝達する
- ・「表出型」テキスト：創造的な方法で思考を伝える
- ・「効力型」テキスト：説得する

（ライス 1971 年/2000 年）

これらのテキスト・タイプとそれらが機能するコンテキストは、原文と訳文の両方において、使用される意味的、統語的、文体的な特徴の種類、さらにテキストの構成方法に直接的な影響を及ぼすとされる。

問Ⅲ

解答例

- (1) Proofreading may well be considered an unglamorous profession. Proofreaders working for newspaper companies are journalists who don't write stories. Day in and day out, their task is to pore over other people's articles and check them for errors—and all in a frantic race against time to make the deadline.
- (2) They know that proofreading is often said to be the “last bastion,” but they aren't exactly sure what they are defending.
- (3) For the newspaper to maintain credibility, proofreaders are “unsung heroes” who are absolutely indispensable.
- (4) In the United States, Meta Platforms Inc. (formerly Facebook) is eliminating fact checkers. This about-face is apparently in response to the conservative argument that checking social media posts constitutes censorship.
- (5) It is certainly not easy to balance “freedom of expression” and “dealing with toxic posts.” But the number of Meta users now reaches 3 billion around the world, and I cannot help but be deeply concerned when I think of the tremendous influence and responsibility of this mega-media. And let us not forget that social media platforms are already being overrun by disinformation, violently shaking democracy in the process.

(VOX POPULI: “Social media further blurring the line between fact and fiction,” *The Asahi Shimbun*, Jan. 10, 2025, p. 1.)

出題意図：昨今問題となることが多いSNSをめぐる最新ニュースを取り上げた。専門用語も含まれているが、普段英文報道に触れていれば親しみのある範囲と考える。日本語特有の表現や言い回しをあえて翻訳対象に入れている。いかに自然な英語にすることができるかというところで、普段から培われた力量が測れると考え、出題した。